～欣浄寺法語メール～２０１７年１月～

「フクシマ」

「私たち凡夫は自分の心を人に知らそう、知ってもらおうと思っている。仏さまは他人の心を知ろうという願いを起こされる。」暁烏敏（あけがらすはや　東本願寺学僧）

先日、映像ディレクター笠井千晶さん（元中京テレビ報道記者）の講演を聞く機会がありました。彼女は東日本大震災の津波で被災した福島の現実を伝えようと、テレビ局を退社してドキュメンタリー映画を製作しました。福島といえば福島第一原発の放射能汚染ばかりが注目され、１，８００人の津波犠牲者がいたことはあまり知られていません。講演では、福島県の津波で両親と子ども二人を失った夫婦との交流を、映像を交えながら語

られました。「ずーっと、おいてきぼりだ。ここは。」相手の心を知ろうと福島に通い続けたらこそ届いた被災者の言葉です。静かなたたずまいで福島の現実を伝えようとする彼女と阿弥陀さまが重なります。

　同じく福島第一原発事故のため故郷の町を離れている１６才の少女が、同じ境遇の子どもたちに語った言葉です。「頑張れば何とかなる、なんてことは、気軽に言えません。ただ、話を聞いてあげたい。同情されるより真剣に受け止めてくれる方が、心の支えになるんです」まもなく東日本大震災から６年、七回忌を迎えます。